

# 厳しい練習積んだからこそ… 八戸は特別な場所

練習後、チームメイトらと国体での活躍を語る澤尻磨里英(手前右)と鬼頭琴音(中央)。11月29日、YSアリーナ八戸



澤尻は長距離、鬼頭は短距離が主戦場。種目は異なるが、先輩を含めて部員が3人だった1年生の頃から、切磋琢磨して練習に取り組んできた。

高校時代は共に、全国で目立った存在ではなかったが、同大に進学後、元実業団選手の船場亜希監督の下でトレーニングを積み、各種大会で好成績を収めるようになった。

現在、5人いる後輩たちにとっても、2人は頼れる存在。船場監督は「後輩の生活面などにも気を配ってアドバイスする姿は頼もしい」と全幅の信頼を置いている。

澤尻、鬼頭にとって、八戸は特別な場所だ。夏には、種差海岸や階上岳などでトレーニングを行い、昨季閉鎖した長根パイニングリンクでは、吹雪の中、練習したことも。おかげで「最後まで諦めない粘り強さが身に付いた」と澤尻は振り返る。一緒に練習する地元



## 第二の故郷 恩返しを

第二の故郷へ恩返しを。29日に八戸市などで開幕した冬季国体のスピードスケート競技に出場する八戸学院大4年の澤尻磨里英(右)と鬼頭琴音(左)。共に北海道出身ながら、高校卒業後、新天地の八戸で厳しい練習に励んできた。そして大学生活最後の今シーズン、YSアリー

ナ八戸がオープン。新しいリンクで地元国体に参加できる喜びをかみ締めるとともに、一つの大きな決意がにじむ。「これまで応援してくれた地元の人たちのために滑りたい」。八戸で出会った多くの人への感謝を胸に、きょう30日のレースに臨む。

(金澤千優希)

### スピードスケート 道出身の八学大4年

#### 鬼頭琴音

#### 澤尻磨里英



本番に向け、練習で滑走する鬼頭琴音



開始式後の練習でリンクを滑走する澤尻磨里英

児童や生徒、スケート関係者との温かい交流も力になった。

児童や生徒、スケート関係者との温かい交流も力になった。鬼頭は「決勝まで残り、1倍強い。」

2人は今春から社会人になるのを契機に、選手生活に区切りをつけるつもりで、国体に懸ける思いは人一倍強い。

鬼頭は「決勝まで残り、1倍強い。」

30日は鬼頭が5000メートル、澤尻が1500メートルにエントリー。2人を見守ってきた船場監督は「地道に頑張ってきた2人が大舞台で滑る姿は、八戸の子どもたちにも響くはず。声援を力に変えて、力を発揮してほしい」とエールを送る。